

10 / 17

Thu

個人型 研究グループ (富草小学校)

共同研究者 宮下昭夫
(信州大学 教育学部附属松本地区 統括長)

子どもの思いから問いが生まれ、 学びが深まる総合的な学習

伝えたい気持ちをどう伝えたいのか

子どもたちは5月に学校近くの防災倉庫を見学し、中に入っている様々な防災グッズについて「使ってみたい!」という思いを持ちました。そこから避難所での生活を具体的に想像したり、防災倉庫の中身を役場の方に説明していただいたりすることを通して、子どもたち自身で避難所生活に持っていきたい物を考えました。さらに、災害時必要な物についてのアンケートを全校の友達や保護者の方からとり、様々な情報を基に自分なりの「防災バッグ」を作りました。

7月にはオリジナルの「防災バッグ」を持ち寄り、学校で一日宿泊をする「避難所体験」を実施しました。実際の災害時と同じようにテント式の仮設トイレを使ってみたり、自分たちだけの避難所生活のルールを作ったりする中で、嫌なことや気になることへの感じ方の違いや、一つの決定にたどり着くために折り合いを付けることなど多くのことを学んでいました。体験を通して、そこで感じた思いを学校や地域の人に伝えたいという願いが子どもたちから生まれ、現在は伝え方について学習を進めています。

9月には事前授業を行い、授業研究会では今後の進め方について宮下先生から提案をしていただきました。体験をしたからこそ芽生えた子どもたちの「溢れる思い」を、子どもたちが思う存分に表現することのできる場の工夫や、教師がどんな子どもに育ってほしいのかという願いを明確に持つことの重要性が話題に上がりました。また、研究部会では子どもたちだけが夢中になって取り組むのではなく、教師も同じように活動や課題に真摯に向き合うことが必要であると、私自身も感じることができました。

当日は、子どもたちの主体性を引き出しながら教師である私自身が子どもと同じように自分事と捉え、防災に対して真摯に向き合い共に学びたいと思います。そして、参会者の先生方と「主体的に学び、学びを深めるための手立て」について考え深めていきたいと思っています。



共同研究者 宮下先生から

担任の野口先生は、子どもの思いを受けとめようと、子どもの声を必死に聴こうとしています。悩みながらも誠実に子どもと向き合っている授業者と自らの願いを実現しようと試行錯誤を重ねている子どもたちの様子をご覧いただきたいと思います。



～日程～

- ① 開会式 13:00～13:10
- ② 研究説明 13:10～13:20
- ③ 授業公開 13:30～14:15
- ④ 授業研究会 14:25～15:35
- ⑤ 講演会 宮下昭夫 先生
15:40～16:30
「探究的な学びと教師の在り様」
- ⑥ 閉会式 16:30～16:40